

齊藤茂吉全集

第四卷

齊藤茂吉全集

第四卷

第三十四回配本（全三十六卷）

齋藤茂吉全集 第四卷

定價 二千八百圓

昭和五十年十二月十三日 發行

著 者 齋 藤 茂 吉

發行者 岩 波 雄 二 郎

〒100 東京都千代田區一ツ橋二丁目五番五號
株式會社 岩 波 書 店

電話 (03) 354-1411

印刷・精興社 製本・牧製本

落丁本・亂丁本はお取替いたします

歌
集
四

目次

短歌拾遺

明治三十八年	三
明治三十九年	六
明治四十年	三
明治四十一年	三
明治四十二年	三
明治四十三年	四
明治四十四年	四
明治四十五年（大正元年）	五
大正二年	五
大正三年	五

大正四年	三
大正五年	六
大正六年	七
大正七年	七
大正八年	七
大正九年	六
大正十年	六
大正十一年	八
大正十三年	八
大正十四年	八
大正十五年	三
昭和二年	五
昭和三年	六
昭和五年	七
昭和六年	八

昭和八年	八九
昭和十一年	九〇
昭和十二年	九一
昭和十三年	九二
昭和十五年	九三
昭和十六年	九四
昭和十七年	一二三
昭和十八年	一八六
昭和十九年	二三五
昭和二十年	二七一
昭和二十一年	二九一
昭和二十二年	二九三
昭和二十四年	二九六

*

明治三十一年	二九七
明治三十二年	二九八
明治三十三年	三〇〇
明治三十四年	三〇二
明治三十六年	三〇四
明治三十八年	三〇五
明治三十九年	三一二
明治四十年	三二一
明治四十一年	三三三
明治四十二年	三三六
明治四十四年	三四一
大正二年	三四二
大正三年	三四四
大正四年	三四五
大正五年	三四六

大正六年	三三七
大正七年	三四九
大正八年	三五〇
大正九年	三五二
大正十年	三五五
大正十四年	三五八
大正十五年	三六〇
昭和二年	三六二
昭和三年	三六四
昭和四年	三六七
昭和五年	三七〇
昭和六年	三七三
昭和七年	三七六
昭和八年	三七八
昭和九年	三八一

昭和十年	三六
昭和十一年	三七
昭和十二年	四〇
昭和十三年	四〇九
昭和十四年	四二
昭和十五年	四六
昭和十六年	四九
昭和十七年	四三
昭和十八年	四七
昭和十九年	四三
昭和二十年	四七
昭和二十一年	四七三
昭和二十二年	四八一
昭和二十三年	四九三
昭和二十四年	四九八

年月未詳	五〇四
短歌索引	五三
後記	九二七

短歌拾遺

明治三十八年

讀賣新聞募集和歌（秋晏選）

若菜　〔二月五日〕

その昔むかしまだ乙女子をとめごの姉君と若菜つみけんかつしかの里
わが妻よいましも吾も若やぎて櫻花みんいざ若菜くへ

春の水　〔二月十六日〕

不忍の池の夕ぐれ櫻さく上野の森のうつりて赤し

春の海　〔三月九日〕

静かなる春の夕暮舟ふね下る天草灘に日のあかきかも

桃　〔三月十八日〕

夕ぐれの一里半みちくたびれて見返る桃のくれなゐ遙か

春雨 〔三月二十九日〕

芍薬の若芽のびたる大寺に春雨ふりて人影もなし

櫻 〔四月十二日〕

甲斐が根ゆふりさけ見れば鳥が鳴く東八國は櫻さきにけり

笛 〔四月十九日〕

旅衣いで湯の宿にあはれなる笛物語り夜は更けにけり

雲雀 〔四月二十九日〕

猿引を旅の道づれ陸奥の雲雀なく野に飯くひにけり
雲雀なくつばな堇の野のひがし豆人寸馬畑に仕事す

苗代 〔五月十日〕

戦^{たたかひ}に行きし子よりの便りあらで苗代小田の苗のびにけり

茶摘
〔五月十九日〕

空蟬の人の老い行くを歌うたひ菅笠なめて茶摘む子等はも

橋（夏季）
〔五月二十九日〕

橋の上に人さまざまの夕涼み二十日あまりの月出にけり

橋の上に涼みつつ見る夏川に月は碎けて人戀しけれ

樂み
〔六月十日〕

樂^{たのし}みは事^{こと}なし果^はてて團扇^{うち}持ちあふ向に寐^ねて星を見る時

灯
〔六月二十日〕

氷屋の旗に風ふきビイドロのガラス暖簾に灯きらめく

水打てば芭蕉^{ばせ}玉まき玉落ちて灯火^{ともしび}ゆらぎ風鈴の鳴る

明治三十九年

○〔馬酔木二月十五日第三卷第二號、五首中二首赤光〕

紫のにはへる蕾かぐはしみながめて居るかも花あやめ草 少女年十一

我が見ても美しくしぎぬに喜びて羽子つく見れば命ほりすも 同

空蟬に春來にければ背戸の田に蟲うごめけり畔つくしもえ

海軍少尉なる一友の凱旋をことほぐとて酒飲む 〔馬酔木三月

三十一日第三卷第三號、四首中二首赤光〕

櫻花匂ふやまのかぐはしの若きもののふにみ酒奉る

生きて來し友が手づからの酒つぎにうれし極まりて酔ひにけるかも

祖母と孫 〔馬酔木五月二十三日第三卷第四號、十首中四首赤光〕